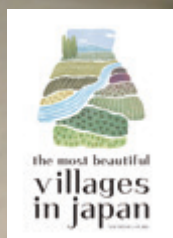


広報Ⓢ
No.729
令和6年

いいたて11

www.vill.iitate.fukushima.jp





大久保金一さん(小宮)のマキバノハナゾノに咲いたコルチカム。

目次 CONTENTS

- 02 報告「飯館村長選挙」
- 04 特集「飯館村のあぶくまもちを召し上がれ」
- 08 報告「飯館村表彰式」
- 09 報告「第7次総合振興計画」
- 10 ほけんとふくし「きらきら金婚夫婦」
- 12 生涯学習のページ「革小物作り教室」ほか
- 13 学びの広場「稲刈り体験」ほか
- 14 空から百景「太平地区のエゴマ畑」
- 16 学びの広場「全国学力・学習状況調査」
- 18 いいたて便り
- 20 話題のパレット
- 22 村からおしらせ
- 23 いいたてなりわいREPORT
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 村民広報委員コラム ほか
- 27 飯館村消防団／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS／おしらせ

📷 今月の表紙

表紙はあぶくまもち生産組合の組合員の1人、庄司久則さん。下の写真は組合長の青田豊実さんです。飯館村でのみ栽培されているもち米が新たな特産品として注目を集めています。詳しくはP4からの特集をご覧ください。



村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係☎0244-42-1613までお知らせください。

飯館村長選挙

杉岡誠氏2度目の当選

任期満了に伴う飯館村の村長選挙は、9月28日告示、10月6日投票の日程で行われ、現職の杉岡誠氏(草野)が、2度目の当選を果たしました。

杉岡氏は前回、令和2年の村長選挙に初めて立候補し、無投票で当選しました。今回は、杉岡氏の他に塚越栄光氏(草野)が立候補して選挙戦となり、両候補が、ふるさとの魅力向上と発信、産業の振興、住民福祉の充実などについて政策を掲げ、論戦を展開しました。

投票率は56.05%で、前回選挙戦となった平成28年の村長選挙と比べて14.79ポイント低下しました。開票作業は交流センター「ふれ愛館」で行われ、杉岡氏の当選が決定しました。

10月7日には村役場で当選証書授与式が行われ、飯館村選挙管理委員会の伊東利委員長が杉岡氏に当選証書を手渡しました。

任期満了後の初登庁は同28日。職員を前に訓示を行い、2期目の杉岡村政がスタートしました。

開票結果 令和6年10月6日投開票

当選 杉岡 誠 無所属・現 2,156票

塚越栄光 無所属・新 116票

投票率(全体)56.05% ※無効票17
投票者数2,289人／有権者数4,084人
(男性2,100人／女性1,984人)

8日間にわたる選挙戦の結果、杉岡氏が当選しました。期日前投票の投票所は、村役場(9月29日～10月5日)の他、福島市飯野町の「いいの交流館」(10月5日)、南相馬市の「サンライフ南相馬」(10月1日)にも開設しました。投票日の投票所は、村役場と「いいの交流館」でした。

就任あいさつ



村長 杉岡 誠

先の飯館村長選挙を経て、二期目の重責を担わせていただくこととなりました。

村民の皆様のご期待に応えるべく、引き続き全力を尽くして職責にあたらせていただきます。

一期目4年間の大半はコロナ禍にありながらも、大規模農業や高収益農業、企業誘致、産業創出、産業振興などの「なりわい」作り、お買い物環境の拡充や訪問型医療の提供など、生活基盤に直結する

新たな政策を力強く着実に進めてまいりました。

今この時期だからこそ、自立的な村の歩み、より一層の発展を目指した歩みを止めてはなりません。

新規・既存の企業・産業による「なりわいの推進」。「健康やかな人生」に直結する医療福祉・子育て・スポーツ環境などの充実。「あぶくまもち」や「飯館牛」などに代表される、村ならではの特色あ

る特産品づくり。どこにいても村と繋がりが、関わることにメリットとなっていく新たなコミュニティ力の醸成。伝統文化の次世代への継承。「選ばれる村」としての魅力発信や磨き上げ。これまで構築してきた国や県、市町村との信頼関係、連携をさらに活かした広域的な復興への取り組みなど、しっかりと努めてまいります。

小学生の頃、祖父が畑仕事にいらした姿が好きで、その様子を粘土細工で作って贈ったことがあります。今も残っているその像を見るたびに、この飯館村を支え続け、額に汗して暮らしてきた先人の熱き想いに胸を打たれます。

前向きに明るく生き抜く村の人々が大好きです。ひたむきに生きる人々が持てる力を余すことなく発揮し、その

努力が報われる村でなければなりません。

飯館村ほどお一人おひとりの存在を大切にし、皆様の意欲に向き合える自治体はないものと自負しております。

これからも皆様お一人おひとりが「ふるさとの担い手」であり、飯館村を躍動させる活力です。全力で皆様の意欲・お声に寄り添い、手と手を取り合つて、より良い村をともに築き上げてまいります。

第7次総合振興計画の策定に向けた部会や委員会が始動しています。

引き続き、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の就任のごあいさつとさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

「飯舘村あぶくもち生産組合」は、3軒の生産農家が参加して令和3年に発足しました。来年は新たに2軒が生産を始める予定です。



森永正男 さん
(前田・八和木)

「あぶくもち」の栽培は、おかげさまで、いい勉強になっています。今年はいく育ってくれました。セブン-イレブンの取り組みはありがたいですね。俺も餅は大好き。さらに作付けする人が増えていくといいですね。

「うまいっ！」
と言って食べても
もらえるものをつくりたいね。

あぶくもち生産組合の皆さん



今年は組合全体の収量が30tを超え、全量が一等米の評価を受けました。

全国に向けて切餅
が販売されること
はいいことですね。
うれしいですね。



組合長！

青田豊実 さん
(前田)

阿武隈地域の気候に合うよう開発された「あぶくもち」。加工に適した品種で、おこわにも向いています。品質のよいものを安定供給できるように努め、生産量も増やしていきたいと思っています。

特産品化のために
栽培拡大を目指す
村に協力したいと
思っています。



庄司久則 さん
(小宮)

兼業農家だった震災前も「あぶくもち」を作っていました。再開後もうるち米ともち米を作っています。「あぶくもち」は作りやすく、味もいい。今年は約4haでしたが、来年は8haで栽培しようと計画しています。

大手コンビニエンスストア、セブン-イレブンの冬ギフトカタログに飯舘村産「あぶくもち」を使用した切餅が掲載されました。数量限定で現在予約を受け付け中。飯舘村でのみ生産されているもち米が、全国デビューを果たしました。

あぶくもち杵つき餅
切餅ギフトセット

数量
限定

あぶくもち杵つき餅6切×6(各約300g)



カタログは全国の店頭で。WEBからも注文を受け付け中。



飯舘村発
のギフト

召し上げれ

特集

飯舘村の
あぶくもちを

全国デビュー！



たくさんの人の想いが重なって

「あぶくまもち」の栽培拡大に力を尽くす生産組合の皆さん。「あぶくまもち」の魅力を高める調理品や加工食品を生産する飲食店の皆さん。レシピの開発や魅力の発信に協力してくださる皆さん。「あぶくまもち」の特産品化に向けて、多くの人が想いを重ねています。

村内の事業所が「あぶくまもち」を活用！

「あぶくまもち」を使っておこわ、凍み餅、焼き菓子などをつくり、それぞれの店舗や道の駅などで販売しています。



特性を生かした
さまざまなレシピも
誕生しています

魅力発信事業でも積極的にPR！

安心・安全な食の魅力を発信する事業を通して、「あぶくまもち」の特性を生かした新たなレシピも生まれています。

日本調理技術専門学校
(郡山市)の協力で試作
された「あぶくまもちシュウ
マイ」。モチモチの食感と
風味が活かされています。



料理家・栗原はるみさん考案、
「あぶくまもち」を使った「豚肉
としょうがのおこわ」。NHKエ
デュケーショナル「みんなのきょ
うの料理」の企画にて。

蒸すとモチモチ！
「あぶくまもち」は
おこわにぴったり！



(令和6年)



飯館村にしかない
もち米をおいしく
召し上げれ！



おこわおむすび 今年度の販売もお楽しみに

生産再開の当初から、飯館村産「あぶくまもち」を使ったセブン-イレブンのおこわおむすびが、期間限定で販売されています。パッケージにはイタネちゃんがあしらわれ、飯館村への応援も詰まっています。今年度はこれまでよりも県内のエリアを拡大して販売される見込みで、より多くの方においしいおこわおむすびを味わっていただけます。この冬の販売期間に、皆様もぜひご賞味ください。発売情報は村のHPや公式LINEなどでお知らせします。

生産者と関係者が新聞社などを訪れPR。(令和5年)



セブン-イレブン おこわおむすび

数量
限定



写真は昨年のものでイメージです。今年度の販売にかかる詳細は続報をお待ちください。

あぶくまもち物語

福島県のオリジナル品種「あぶくまもち」。震災により栽培が途絶えましたが、現在は復活の地、飯館村でのみ栽培されています。新たな特産品として歩み始めた「あぶくまもち」の物語です。

もち米「あぶくまもち」は、福島県農業総合センターが高冷地向けに約15年の歳月をかけて開発したオリジナル品種で、平成21年に品種登録され、村も栽培・普及に取り組んでいました。震災直前の平成23年1月に開かれた「新春村民の集い」では、栽培拡大への期待を込めてこのもち米を会場で販売。また、餅

をついて皆で味わいました。村は、震災で取り組みが中断されたこの「あぶくまもち」を復活させようと、令和3年、前田地区のほ場16aで実証栽培を行い、関係者や村民と共に、加工品も試作。試食の会で食味を確認し、好評を得ました。特定の地域名を冠した作物は珍しく、また、切り餅・丸め餅



震災直前の平成23年1月に開かれた「新春村民のつどい」。会場でついた餅が参加者に振る舞われた他、もち米の販売も行われました。「あぶくまもち」を新しい特産品に育てていこうと、生産者をはじめ関係者の間で機運が高まりつつありました。

にする際の作業性に優れているなど特徴のあるもち米で、村は、青田豊実さんを組合長に発足した生産組合と共に、栽培の拡大に取り組み始めました。令和4年は、翌年からの生産拡大に向け、種子生産ほ場を村内に設置し「種もみ」づくりを行いました。純粋な「あぶくまもち」の種子を採るために、種子ほ場は複数回の審査を受けなければなりません。青田さんを中心に、役場職員もほ場の作業に加わりました。主食用のもち米は、飯館村ライスセンターの全量全袋検査に合格し、セブン-イレブンのおこわおむすびとして販売された他、村内の飲食店などで加工・販売されました。また約200kgの種子を確保し、令和5年からはよい本格栽培が始まりました。村は復活当初から、福島県相双農林事務所の全面的な協力を得て、また、多くの関係先の支援も受け、「あぶくまもち」の特産品化に取り組んでいます。また、村内の飲食店なども工夫を凝らして加工食品の生産・販売を行っています。多くの人の手で、新たな特産品としての歩みを進める「あぶくまもち」です。



令和3年に行われた実証栽培。関係各所の協力を得て、復活に向けた挑戦が始まりました。

第7次総合振興計画 策定作業始まる 組織を立ち上げ検討をスタートしました

■ 総合振興計画とは

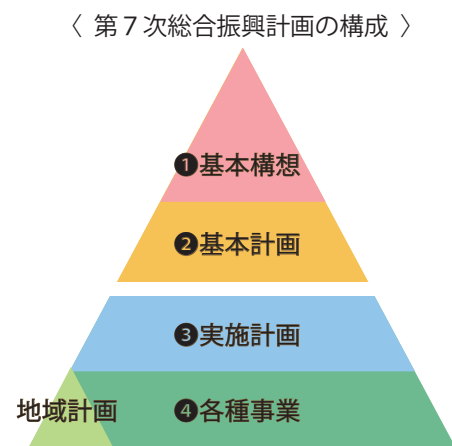
総合振興計画は、「飯館村をどのような村にしていけるのか」（＝目指す姿）と、「そのために何をするのか」（＝実現化の方針）を総合的・体系的にまとめた、村の最上位計画です。計画書は基本的に行政運営の方針書であると共に、目指す姿・目標を村民と共有したり、対外的に村づくりの方針を表明する、いわば「村づくりの羅針盤」となるものです。

第7次総合振興計画は、令和8年度からの運用に向けて策定します。計画策定のための組織を立ち上げ、検討をスタートしました。

■ 第7次総合振興計画の構成

第6次総合振興計画（6次総）の後期計画では、行政運営の方針書として計画の構成を見直しました。第7次総合振興計画（7次総）も右のような構成で策定します。

東日本大震災以前、本村の総合振興計画は村民主体の地区別計画を中心にとりまとめたものでした。震災の影響で住民の移動があり、6次総策定時点では地区別計画の作成を見送りましたが、現在は「地域みがきあげ計画」として、6次総とは別に各行政区の取り組みが計画されています。7次総では名称を新たに「地域計画」とし、各種事業の中に位置づけます。



■ 第7次総合振興計画の策定体制

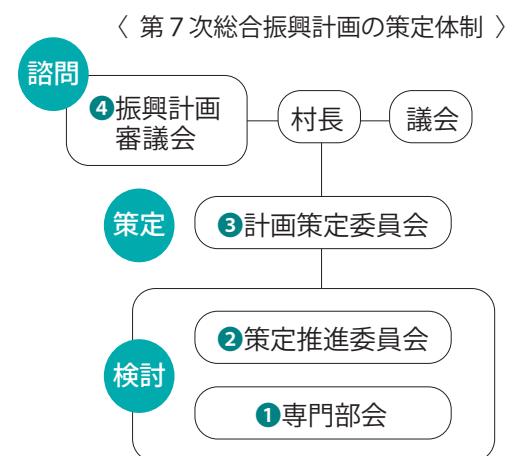
大きく分けて検討・策定・諮問の3つの段階があり、それぞれに協議する組織を設置します。

①専門部会 村民と行政職員、有識者アドバイザーで構成します。施策分野に準じて、今期は4部会を設定しました。部会名とそれぞれの施策分野は右の図の通りです。主に村の目指す姿（基本構想）と各施策分野の目標、具体的な取り組みについて協議します。

②策定推進委員会 住民や専門部会の意見のとりまとめ、調整を行います。また、吸い上げた意見等を施策として整理し、庁内で共有します。主に基本計画・実施計画について協議し原案を作成します。

③計画策定委員会 原案を踏まえて全体的な計画の方針を決定し、基本構想・基本計画の最終案を提出します。

④飯館村振興計画審議会 村からの諮問を受け、振興計画の策定に必要な審議・答申を行います。



専門部会構成

なりわい部会…産業・観光・DX・ゼロカーボン
健康部会…健康・医療・福祉
教育部会…教育・文化・スポーツ
生活部会…生活環境・交通・インフラ・防災・行財政



振興計画審議会（10月8日）



計画策定委員会（10月9日）



4部会合同専門部会（10月19日）



菅野 クニさん
（宮内）
飯館村教育委員12年

功労表彰



故) 遠藤 哲さん
（福島市瀬上町）
（令和6年1月24日ご逝去）
飯館中学校長2年 8か月
飯館村教育長4年10か月

功労表彰



佐藤 春雄さん
（大倉）
飯館村消防団員33年

功労表彰



大和田 保男さん
（八木沢・芦原）
飯館村消防団員39年

功労表彰

令和6年度 飯館村表彰式

9月27日、令和6年度飯館村表彰式を、交流センター「ふれ愛館」で挙行了しました。式では杉岡村長が、功労表彰の4人に表彰状と記章を授与。来賓の皆様のご臨席の下、長年にわたるご尽力に感謝を伝えました。

また、今回の表彰式では、コロナ禍以降初の祝賀会も同日開催され、出席者が表彰者に感謝と祝意を伝えました。

ご逝去された遠藤哲教育長の功労表彰に際し、妻の範子さん（前列左から2人目）にご出席をいただきました。





伊藤 光男さん・みとりさん(上飯樋)
農業と勤めの兼業の中、二人で助け合いながら過ごした50年は「長いようであつという間だった」とのこと。「大変なことも二人でいれば乗り越えられる。これからも健康第一に、一緒に過ごしていきたいです」。



佐藤 省一さん・フサ子さん(関根・松塚)
当時知人の紹介で出会ったお二人。「50年はあつという間だぞ」と時の流れの早さを実感。「我慢をした日もあったけれど、お互いを思いやり、これからも当たり前のように隣にいる存在であり続けたいです」。



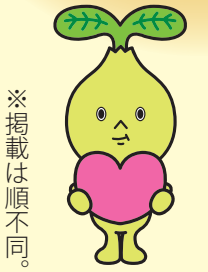
木幡 秀和さん・由美子さん(伊丹沢)
友人の結婚式で出会い、そこから1か月での結婚。「喧嘩をした日もあったけど、気づいたら自然と仲直りして、あつという間の50年でした」。健康の秘訣は毎日の散歩と三食のご飯をしっかり食べること！



佐藤 博さん・洋子さん(二枚橋・須萱)
「いいたて佐藤いちご園」を経営するお二人。「50年は通過点、今までの思い出は忘れられないものばかり」と振り返りました。「いちごを通した子ども達や村民との交流を、これからも仲良く続けていきたい」。



高橋 則雄さん・ヤス子さん(二枚橋・須萱)
当時の青年会の交流で出会ったお二人は、どこへ行くにもいつも一緒です。共通の趣味であるパークゴルフでは、夫婦ともに何度も賞を獲るほど！「これからも元気いっぱい夫婦で過ごしていきます」。



夫婦円満の秘訣は、お互いの話をよく聞き、役割分担をしっかりとすることだそうです。お孫さん達から贈られた記念の色紙が何よりもうれしい様子。結婚式の時に歌を歌うのが楽しみだと語りました。



高野 勝幸さん・恵子さん(前田・八和木)

方も何組かいらっしゃいます。取材を通して昔を思い出す方、改めて想いを伝える方、恥ずかしそうに笑顔を浮かべながらもどこかうれしそうに互いを見つめる方…。そんな愛にあふれたご夫婦の想いや出会いのエピソードを、寄り添う素敵な笑顔と共に紹介します。

めでたく金婚を迎えられたご夫婦へ、10月中旬、杉岡村長より、褒状と金婚祝い品を贈呈させていただきました。今年50周年を迎えられたご夫婦は、生活改善センター(現交流センター「ふれ愛館」)が建設された年に結婚された方々で、同施設で結婚式を挙げたという



佐藤 昇さん・敏子さん(草野)

土地改良区職員、役場職員として、同じ職場で働いていたお二人。村を支え、互いを支えて過ごした50年でした。「言いたいことを互いになんでも言える関係」であることが、仲良しの秘訣と語りました。



長谷川 秀義さん・佳代子さん(宮内)
職場の出会いで結婚し、酪農農家として支え合ってきました。互いに「苦労をかけたなあ」と語りながらも、苦楽を共にすることで想い合える二人となりました。兄弟と集まるのがこれからの楽しみだそうです。



松林 正一さん・仁子さん(大久保・外内)
幼馴染だったお二人。互いに「よい父親だ」「よいお母さんだ」と語り合う姿はまさに理想の夫婦です。「50年はあつという間。当たり前時間に時間が流れただけ。これからも家族みんなで楽しく過ごしていきます」。



巻野 三男さん・陽子さん(伊丹沢)
高校で出会ったお二人は、どんな時も一緒。「支えられてきた。一緒にいられて楽しい」と語る三男さんに「汗が出ちゃう」と笑顔の陽子さん。「想い合ってきたからこそ、どんなことでも乗り越えていけます」。



菅野 啓一さん・忠子さん(比曽)
結婚当初から共に農業を営んできたお二人。子ども達も農業を覚えて、一緒に花を育てる日々が楽しみです。「これからも花を通して飯舘村をたくさん発信していきたい」と笑顔で意気込みを語りました。



鳴原 良友さん・美佐江さん(長泥)
知人の紹介で出会ったお二人。酪農と勤めの兼業で大変な日々でしたが、支え合って過ごしてきました。「『ありがとう』『好き』をしっかり言葉で伝える事が大事だよ」と少し照れつつ優しい笑顔で語りました。



鳴原 清三さん・利江さん(長泥)
小さい頃から知り合いだったお二人。利江さんは結婚してから農業を覚え、共に支え合って過ごしてきました。「農業は一人ではできない。互いの信頼と助け合いが大事」とそれぞれに感謝を伝えていました。

力を合わせて稲刈り体験

10月7日、森永正男さん(前田・八和木)の水田にて、いいたて希望の里学園の児童の稲刈り体験が行われました。5月に田植えをした水田での稲刈り体験です。田植えに続き、地域ボランティアの皆さんが、子ども達と一緒に田んぼに入り、作業のコツを教えてくださいました。力を合わせて稲刈りとはせがけをやり遂げた児童は、ボランティアの皆さんに「丁寧に教えていただいて、ありがとうございます」などと感謝を伝えていました。

学園NEWS! いいたて希望の里学園



飯舘村の農業をもっと深く知ろう!

9月24日には前期課程の5年生が、飯舘村の農業について学ぶために村役場を訪れました。産業振興課農政第一係の職員が、飯舘村の農業の歴史や農業形態について説明。子ども達が、村の特産品や震災後の農業などについて質問しました。児童の1人が「飯舘村はもう復興していると思っていた」と話したのが印象的で、子ども達が村の農業復興やこれからを考えるよい機会となったようです。



こども園NEWS! までの里のこども園

笑顔あふれる運動発表会

9月28日、までの里のこども園の運動発表会『までリンピック2024』を、いいたて希望の里学園第2体育館で開催しました。発表会では、体操、かけっこ、リズムダンス、リレーなどの種目を行い、入園や進級をしてからの成長した姿をご家族に観ていただきました。また、親子ダンスでは、大人も子どもも笑顔で触れ合いを楽しみました。保護者の皆さんは、声援や拍手で頑張りを讃え、参観を通して子ども達の育ちを実感していました。



大きく育ったね!サツマイモ掘り

10月18日、までの里のこども園の3歳以上の園児達が、園の畑で、サツマイモの収穫を行いました。6月にみんなで植えた苗がすくすくと成長し、今年は例年に増して大豊作。子ども達は、友達と協力しながら、小さな手で大きなサツマイモを掘り出しました。

収穫したサツマイモは、それぞれ家庭に持ち帰りました。また、11月に園で計画している収穫祭では、子ども達が調理をして、味わう予定です。



生涯学習事業「革小物作り教室」

10月2日、交流センター「ふれ愛館」で、生涯学習事業『革小物作り教室』を開催しました。講師は、巻野順子さん(飯樋町)です。10人の参加者が、6色の革から好きな色を選び、小物入れを製作しました。参加者全員が革を使った製作は初めてでしたが、講師の巻野さんが一工程ずつ丁寧に説明し、参加者も協力しながら作業を進め、それぞれ満足のいく仕上がりとなったようです。「とても楽しかった」「貴重な体験ができた」と感想を述べ合い、交流も深めていました。



半田山自然公園でウォーキング交流会



10月12日、桑折町の半田山自然公園で、ウォーキング交流会を開催しました。当日は晴天に恵まれ、紅葉が始まった森と半田沼の美しい景色を満喫することができました。軽く体をほぐして半田山管理センターを出発し、半田山展望台を目指してウォーキング。展望台の眺望を楽しみながら昼食を取り、半田沼周辺を散策しました。今回は、子ども2人を含む14人が参加し、ウォーキングを通して交流を深めました。全員が無事に完歩し、「とても楽しかった」と充実した表情で言葉を交わしていました。

飯舘YOITOKO発見!ツアー×1日バスツアー

10月19日、『第8回飯舘YOITOKO発見!ツアー』を開催しました。村民を対象とした『村内1日バスツアー』との共同開催です。

今回のツアーでは、大倉地区の福善寺前庭で「大倉の神楽」を、佐須地区の山津見神社でオオカミ天井絵を観賞。また、サッカー日本代表の専属シェフを長年務め、パリオリンピックではサッカー女子日本代表専属シェフを務めた西芳照さんをツアーゲストに迎え、トークイベントが行われた他、シェフ特製の「代表カレー飯舘スペシャル版」を皆で味わいました。

飯舘産黒毛和牛の旨みを存分に生かした絶品カレーは大好評。2つのツアーの参加者や開催に協力した皆さんが、カレーを味わいながら会話を弾ませ交流しました。



「いいたて結い農園」の大平地区のエゴマ畑です。収穫期を迎え、この日は右奥のエリアで収穫作業が行われていました。刈り取った穂を振るって実を落とす作業が行われていて、畑いっぱいエゴマが香っていました。集めた実は手作業で丁寧に仕上げ、いいたて村の道の駅までい館で販売します。「いいたて結い農園」のウェブサイトからも購入できます。

空から
百景

大平地区の
エゴマ畑

2 各教科の結果と質問紙調査との関連を分析して、正答率の高い傾向にある児童生徒

生活に関わること	学習に関わること
◎ 朝食を毎日食べている。	◎ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときは、自分で学び方を考え工夫している。
◎ 起床、就寝時刻が決まっていて守っている。	◎ 学校の授業以外に1日2時間以上勉強している。
◎ 家に本がたくさんあり、読書が好きである。	◎ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている。

学力向上に向けた今後の取り組み

学校では

- 少人数教育のメリットを生かした指導を継続していきます。学力調査では学年集団の傾向のみでなく、児童生徒一人ひとりの学力(身につけていることや課題)を把握し、個別指導を充実させていきます。
- ICT機器を積極的に活用し、協働的な学びや思考力・判断力・表現力の向上に役立たせてきました。引き続き活用しながら個別最適な学びにもつなげていきます。
- 思考力、判断力、表現力の向上のために、授業では「話すこと・聞くこと」の充実を図るとともに、文章を書く機会を増やしていきます。

ご家庭では

- 毎日の生活リズム(起床、就寝、食事の時間)を守らせましょう。
- ゲームやスマートフォンの使い方を親子で決めましょう。読書の習慣をつけさせましょう。
- 家庭学習を習慣化させるために、下校後の計画を立てさせましょう。



学校と家庭が連携し
毎日の積み重ねで
よりよい学習環境を
つくっていきましょう!

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果から

令和6年4月に全国学力・学習状況調査が行われました。この調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育活動に役立てていくことです。今年は2教科(国語と算数・数学)の試験及び質問紙調査(学習・生活状況に関する質問)を実施しました。飯館村教育委員会では、調査結果から子ども達のよさや課題を把握し、継続的な検証改善サイクルを確立しながら確かな学力を育むことをめざしています。

福島県の傾向

- 小・中学校国語が全国平均をやや下回っている。小学校算数と中学校数学においても全国平均を下回っている。
- 質問紙調査から「主体的・対話的で深い学び」を実感しながら学習していると答える児童生徒は全国平均を上回っている。
- 全国平均に比べてICT機器を効果的に活用した協働的な学びの推進に課題がある。

飯館村の傾向

- 前期課程(小学校)の傾向は県と同様である。後期課程(中学校)では全国平均を上回っている。
- 授業におけるICT機器の活用頻度は全国や県平均に比べて極めて高い。

1 各教科について

6年生

	良くできているところ	課題となっているところ
国語	■ 漢字を文の中で正しく使う。 ■ 情報と情報との関係付けや語句と語句との関係の表し方を理解し使う。	■ 目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する。 ■ 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。
算数	■ 数量の関係を、記号を用いた式に表す。 ■ 直方体の見取図について理解し書く。	■ 除数が小数である場合の除法の計算。 ■ 計算が成り立つ性質を活用しながら計算の仕方を考察する。

9年生(中学3年生)

	良くできているところ	課題となっているところ
国語	■ 短歌に用いる表現の技法についての理解。 ■ 文の成分の順序や照応(関連)についての理解。	■ 必要に応じて質問しながら話の内容を捉える。 ■ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する。
数学	■ 考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をする。 ■ グラフから事象に即して解釈する。	■ 図形の証明について筋道を立てて考える。 ■ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。

市町村対抗ソフトボール大会 熱戦を展開し9対10で惜敗



時間制限により5回までで試合終了となり惜しい試合を落しました。グラウンドが荒れた中、大健闘でした。

10月6日、第11回市町村対抗福島県ソフトボール大会の1回戦に飯舘村チームが出場しました。

1回戦の対戦相手は浅川町です。会場の相馬光陽ソフトボール場は小雨模様で、ぬかるんだグラウンドで点を取り合う試合となりました。

飯舘村チームが1点を先制、その後は浅川町が得点を重ね、一時は1対7と引き離されましたが、3回に佐藤将樹選手のランニングホームランなどで同点に追いつきました。しかしその後も点の取り合いが続き、9対10で惜しくも敗れました。

いいたてクリニックなどで 医学生が地域医療体験研修

9月26日、相双保健福祉事務所が主催する「地域医療体験研修」が村内で開催され、福島県立医科大学と帝京大学から合わせて16人の医学生が研修を受けました。

研修は、いちばん館で始められ、いいたてクリニックの本田徹先生が講師を務め、村内の医療の現状や特徴、地域医療の大切さについて、講話を行いました。また、講話と質疑応答の後に、実際にいいたてクリニックを訪れて、施設の見学も行いました。



資料を示し、いちばん館で講話を行う本田先生。先生の医療活動についても、医学生が熱心に耳を傾けました。

飯舘電力チャリティゴルフ 未来基金に寄附



チャリティイベントの開催による子ども達への贈り物を、毎年ありがとうございます。大会時の集合写真です。

10月8日、パーシモンカントリークラブ(伊達市)で、飯舘電力株式会社がチャリティ村民ゴルフ大会を開催し、集まった募金1万7,100円を「いいたてっ子未来基金」に寄附しました。この基金は、飯舘村の教育・保育の充実や、教育環境整備などに活用されています。

平成26年に村民有志が「自立と再生」を掲げて設立した同電力会社は、飯舘地区に本社を、福島市に支社を置き、再生可能エネルギー事業を行っています。

楢葉町のスポーツ施設にて スポーツ推進委員が視察研修

9月28日、飯舘村スポーツ推進委員の視察研修を行いました。

研修には役場の担当職員も同行し、6人の委員が、楢葉町の「ならはスカイアリーナ」と「Jビレッジ」を訪れました。現地では、視察を通して、施設の管理方法や、取り組みの事例を学びました。また、各施設の担当者を交えて意見交換も行い、地域に共通する高齢化問題や人口減少問題にも照らして、運営の実情や課題なども教えていただき、理解を深めました。

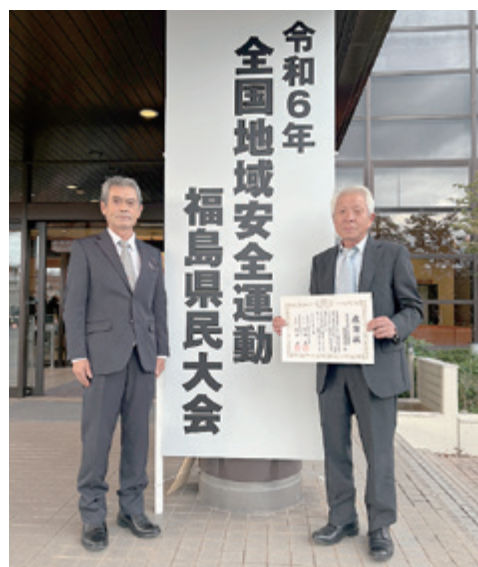


サッカーナショナルトレーニングセンター「Jヴィレッジ」。施設の機能や運営方法の説明を受け視察しました。

飯舘村防犯指導隊 防犯功労団体として表彰

10月16日、サンライズもとみや(本宮市)で開催された『令和6年全国地域安全運動福島県民大会』にて、飯舘村防犯指導隊が、「防犯功労団体」として福島県警察本部及び福島県防犯協会連合会から表彰され、感謝状が授与されました。

本大会は、日頃より防犯活動に尽力されている個人や団体を表彰し、安全な地域社会を目指すために開催されています。当日は隊長の渡邊富士男さん(飯舘町)と副隊長の原田直志さん(深谷)が出席し、感謝状を受け取りました。



大会会場の前で、渡邊隊長と原田副隊長。

記憶に残る成人式を 成人式実行委員会が始動

『令和7年飯舘村二十歳の成人式』に向けて、交流センター「ふれ愛館」で、8月24日に第1回、9月28日に第2回の実行委員会が開催されました。メンバーは、大谷^{ないと}哀斗さん(小宮)、菅野翔さん(飯舘町)、庄司梨花さん(伊丹沢)、菅野准さん(宮内)の4人で、菅野翔さんが実行委員長を務めます。会では、当日までのスケジュールの確認や、式典での役割分担、会場の装飾などについて協議を行いました。今年度二十歳を迎えるのは、震災時、旧草野・飯舘幼稚園を卒園する年齢だった皆さんです。



第2回実行委員会に参加した委員の皆さん。左から菅野准さん、大谷さん、委員長の菅野翔さん。

花粉の少ない森林づくり事業

10月16日から17日にかけて、二枚橋地区にて、飯館村森林組合による『花粉の少ない森林づくり事業』が行われました。本事業は福島県のモデル事業で、少花粉の苗木を植えることで、将来花粉の少ない森林を作る事業です。

二枚橋郵便局裏手の約1.17haのエリアに、少花粉の杉の苗木を植えました。苗木が育つのは約40年後とのこと。未来の飯館村を住みやすくするための、将来への布石となります。



工房マートル 多彩な作風で展示会

キャンドル作家、大槻美友さんのアトリエ「工房マートル」(上飯樋)で、10月12日・13日、新作をお披露目する展示会が開かれました。大槻さんの今年のテーマは「原点と起点」。とっておきの作風に挑戦したり、過去の作品を大胆にアレンジしたり、さまざまな試みを行っています。12日には、生花、ハーブティー、焼き菓子、ベーグルのポップアップショップも登場。キャンドルと共に、心と身体をいやすアイテムが並び、訪れた人がお気に入りとの出会いを楽しんでいました。



◀新作の一つ。アンティークな質感が新鮮。

いいたて結い農園『HATAKEな1日』

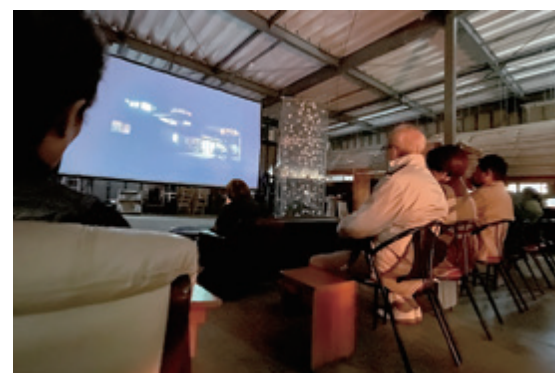
10月5日、「いいたて結い農園」が、エゴマ畑を会場に、交流イベント『HATAKEな1日』を開きました。

参加者は、畑の真ん中で、空を仰ぎながらピラティスを体験。農園の皆さんに教わりながら、農作業にも挑戦しました。自然の息吹を感じながら、体を動かした後は、木陰の特設会場でバーベキュー。参加者の皆さんは、畑の景色の美しさも味わいながら、リラックスした雰囲気の中で、心地よい交流を楽しんでいました。



Yaeさんコンサート～いのちを歌う～

10月20日、「半農半歌手」で活動するシンガーソングライターYaeさんのコンサートが、図国倉庫で開かれました。主催は有志の団体「ふらっと」(代表・大内亮さん／八木沢・芦原)で、Yaeさんが出演したドキュメンタリー映画「つ・む・ぐ～織人は風の道をゆく」の上映も行われました。コンサートでは、いのち、そして平和への祈りを歌うYaeさんの強く澄んだ歌声が会場を満ちました。長きにわたり飯館村の応援と発信を続けてくださっているYaeさん。終演後、感動や共感を伝える来場者に「また来ます。お元気で」と語りかけ、握手を交わしていました。



飯館村婦人会による秋のごみ拾い

10月5日、飯館村婦人会の会員16人が、奉仕活動を行ってくださいました。婦人会の皆さんが定期的に行っている美化活動です。

今回は役場前から白石交差点までの道路周辺約5.2kmと、いいたてスポーツ公園のサッカーコート周辺のごみ拾いを丁寧に行ってくださいました。継続的に美化活動を行ってくださる婦人会の皆さんに感謝し、ごみのポイ捨ては絶対にしないようにしましょう。



産品が大集合!「までいなマルシェ」

9月28日、いいたて村の道の駅までい館で、道の駅生産者の会が主催する『までいなマルシェ』が開催され、いいたて雪っ娘かぼちゃやエゴマ商品、自家製の味噌や農産物など、村の魅力あふれる産品が多数販売されました。当日は村内外から多くのお客様が来場し、開場から大いに賑わいました。お客様の中にはこのマルシェで久しぶりに再会した方々もいて、村民同士の交流の場にもなっていました。



いいたて
なりわい
REPORT
vol.6

地域と共に、よりよい農業の再生を目指して
株式会社エムケーファーム



旧臼石小学校を拠点に、令和元年から飯館村で、農地の再生に取り組んできた株式会社エムケーファームの農業部門。令和6年よりグループ会社の株式会社エムケーファームと業務を一本化、人員体制を強化しながら遊休農地での営農を拡充しています。

新しい村づくりに果敢に取り組む飯館村を後押ししよう、と、6年間に及ぶ全村避難が解除されたばかりの村で、いち早く農業再生プロジェクトを立ち上げたのがエムケーファーム代表取締役社長の菊野里絵さん（宮内）です。「私なりに使命感を持って、農業

土壌の再生から取り組んできた菅田地区の農場。露地とハウスで野菜を栽培。



協力隊の寺島翔太さん、新入社員の菅野祐一さんが菅田地区での営農を担います。



に向き合ってきました」。プロジェクトがスタートした当初から、付加価値のある農作物の生産や、6次化のための商品開発に挑戦してきました。農業部門を再編し、エムケーファームとして事業を進めるにあたり、同社は企業雇用型地域おこし協力隊を採用。さらに1人を雇用し、村内の農場の運営を、若い2人に託しています。

「若い力を借りながら、おいしい野菜をお届けしたい。また、私達の取り組みを通して、かつてのような牧歌的で美しい風景を、少しずつでも取り戻していけたら」。

エムケーファームは、村内のさまざまなイベントやツアーに「おいしい野菜、おいしい料理」を提供するなど、地域への協力も惜しみません。

「農業を再生していく過程にあるからこそ、新規参入、人材の発掘、スマート農業の導入などにチャレンジしやすい環境があると思います。私達も村の農業の再生に、これからも本気で取り組んでいきます」と菊野さん。「規模を広げ、売り上げを伸ばして、エムケーファームの存在感を、一歩一歩広げていきたいですね」。

株式会社エムケーファーム
飯館村臼石字田尻127-1
TEL:0244-68-2501

エムケーファームの農業部門では、企業雇用型地域おこし協力隊を募集しています。（協力隊応募の詳細については「いいたて移住サポートセンター3ど」☎0244-68-2850まで）

右から、菊野社長、菅野さん、寺島さん。コミュニケーションを大切に、さらなる躍進へ力を合わせます。

前村長 菅野典雄さん 総務大臣表彰

平成8年から6期24年飯館村長を務めた菅野典雄さん（佐須）が、総務大臣表彰を受けました。この表彰は、地方自治の発展に功労があったと認められた全国の市区町村長、都道府県市区町村議会議長に対する大臣表彰で、今年は合わせて18人が表彰を受けました。そのうち町村長は菅野前村長、川内村の遠藤雄幸村長を含む7人で、福島県からは2人が選出されました。

表彰式は、10月4日に全国町村会館（東京都千代田区）で挙行されました。式の前後には、飯館村の取り組みに注目していたという何人もの受賞者に菅野さんが次々と話しかけられる場面もありました。菅野さんは「多くの方の協力があった」と村政を担った24年間を振り返り、周囲への感謝を述べていました。



10月の村の動きと主なできごと

- 1日・いいたて村文化祭第4回実行委員会（交流センター「ふれ愛館」）
- 2日・生涯学習事業「革小物作り教室」（交流センター「ふれ愛館」）
- ・地域医療体験研修（いちばん館／いいたてクリニック）
- ・福島県立医科大学保健科学部 実習（いいたてホーム）
- 4日・菅野典雄前村長 総務大臣表彰（東京都千代田区・全国町村会館）
- ・前田八和木地区農地中間管理事業調印式（下橋集会所）
- 6日・飯館村長選挙 投票開票 投票・村役場・福島市いいの交流館／開票・交流センター「ふれ愛館」
- ・第11回市町村対抗福島県ソフトボール大会1回戦 対浅川町（相馬光陽ソフトボール場）
- ・伊丹沢地区農地中間管理事業調印式（伊丹沢集会所）
- 7日・飯館村長選挙 当選証書授与式（村役場）
- ・飯館町地区農地中間管理事業調印式（飯館町集会所）
- ・いいたて希望の里学園 前期課程稲刈り体験（前田・八和木地区）
- 8日・第1回飯館村振興計画審議会（村役場）
- 9日・第1回第7次総合振興計画策定委員会（村役場）
- 12日・ウオーキング交流会（桑折町・半田山自然公園）
- 13日・パークゴルフde飯館村の担い手大交流会（いいたてパークゴルフ場）
- 15日・衆議院議員選挙 告示日
- 16日・飯館村防犯指導隊 全国地域安全運動福島県民大会 表彰（本宮市・サンライズもとみや）
- ・福島県立医科大学保健科学部 実習（いいたてホーム）
- 18日・乳幼児健診（いちばん館）
- ・農業委員会定例総会（村役場）
- 19日・第7次総合振興計画策定専門部会（飯館村地域防災センター）
- ・第8回飯館YOUTOKO発見ツアー／村内1日バスツアー（村内各所）
- 20日・令和6年飯館村消防団秋季検閲式（消防分署南手駐車場）
- ・宮内地区農地中間管理事業説明会（宮内公会堂）
- 22日・地域おこし協力隊中間報告会（村役場）
- 23日・第41回いいたて村文化祭 総合文化展審査会（交流センター「ふれ愛館」）
- ・福島県立医科大学保健科学部実習（いいたてホーム）
- 24日・定例教育委員会（村役場）
- ・空き地・空き家バンクサポーター意見交換会（いいたて移住サポートセンター3ど）
- 24日・総合文化展作品展示（交流センター「ふれ愛館」）
- 26日・いいたて子発表会・赤蜻祭（いいたて希望の里学園）
- ・飯館産ホップ使用ビール完成披露目会（宿泊体験館きこり）
- 26日・はじめてのミチシル旅（村内各所）
- 27日・第41回いいたて村文化祭（交流センター「ふれ愛館」）
- ・いいたて秋まつり（いいたて村の道の駅までい館）
- ・衆議院議員選挙 投票開票（投票・村役場・福島市いいの交流館／開票・いちばん館）
- 28日・杉岡誠村長 二期目初登壇（村役場）
- 31日・までのりの里のこども園 ハロウィンパレード（村役場・いちばん館）

「人はサルに対抗できるのか？」

～身体能力と知能から考える～

飯舘村にはサルがたくさんいますし、被害も多く発生しています。しかし、サルの能力については、誤解や過大評価されている部分もあるようで、特別に対策が難しい動物と考えている人もいるかもしれません。そこで今回は、サルの能力のうち、対策に関係のある部分をご紹介します。

身体能力

皆さんもご存じの通り、サルは器用に手を使います。そのため、木や電柱、獣害対策用の柵にもよく登ります。また、昔から猿(ましら)と言えば運動能力や武芸に長じた人の例えであるように、高い運動能力を持っています。特に、ジャンプ力に優れていますから、ワイヤーメッシュ柵の上に電気柵を乗せた複合柵でも、近くに木や電柱などがあると、そこに登ってからジャンプして飛び込んでしまいます。サル対策のために柵を設置する時は、木や電柱などから3mくらいは離してください。

嗅覚や聴覚は人間と同じくらいで、哺乳類としてはあまり良いほうではありません。視力も人間と同じくらいですが、これは哺乳類としては良いほうです。サルは臭いなどではなく、目で見て畑の作物などを見つけています。サルに狙われやすい作物は畑の中ほどに植えて、周りから見えにくくすることも有効です。

知 能

私が狩猟を始めた頃、先輩のハンターから「サルに銃を向けると手を合わせて命乞いする」と言われたことがあります。もちろんデマです。サルは人間の幼稚園児くらいの知能があると言われていますが、当然ながら人間ほど賢いわけではありません。しつこいので、長い時間をかけて何度も柵内に侵入を試みるなどして、対策をすり抜けがちです。また、学習能力があるので、それを逆手にとって、家や農地に出てくるサルを繰り返し追い払ってれば、人間は怖いものだと学習させ、出没を減らすこともできます。ある程度の知能があるからといって対策を諦めるのではなく、うまく利用して対策に活かしたいですね。

サルは優れた運動能力を持っていますが、対策ができないほどではなく、工夫することで食い止められるくらいのものです。ある程度の知能を持っているので、それを対策に利用することができます。

敵を知り己を知れば百戦危うからず！まずは相手のことを正しく知りましょう。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯舘村の主担当となりました。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



イラストも…!

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

おすすめ図書を紹介します

まい飯レシピ
やるしかないから、
今日もごはんを作る！



まい 作
主婦の友社

5人の子どもを育てる著者。毎日忙しい中で活用できる実用的なレシピがたくさん。すぐに作れるものばかりで、お腹も心も満腹になります。

特盛バズレシピ



リュウジ 作
扶桑社

人気の料理研究家・リュウジ。SNSで急激に拡散されて注目を集めているレシピは、簡単にできて確実においしい。これを機に、バズレシピに挑戦してみよう。

問 生涯学習課 ☎0244-42-0072

オオカミ天井絵

歴史の散歩道

永承6年(1051年)に創建されたと伝わる佐須の山津見神社。山の神を祀り、広く信仰を集めています。縁起によれば、源頼義公が凶賊 橘墨虎の討伐に苦戦していたところ、山の神が夢に現れ、白狼の足跡を追うよう告げました。これに従い臣下がオオカミの足跡を辿り、岩穴で墨虎を発見して成敗。頼義公が山頂に祠を建て、山の神を祀ったと伝わります。墨虎を捕らえたことから山の名が「虎捕山」に、「刺す」が地名の「佐須」になったとも言われます。

藩の絵師・伏見東洲らが描いたとされる旧オオカミ天井絵237枚は、全村避難中の平成25年4月に、火災により焼失しました。当時、復元を願う地域に寄り添い多くの人が立ち上がりました。焼失直前に和歌山大学の加藤久美教授と写真家のサイモン・ウーン氏が記録撮影をしていた写真を足がかりに、復元プロジェクトが始動。東京藝術大学大学院の荒井経教授(当時は准教授)と研究生らが、記録写真を手本に237枚を復元。再建された拝殿の構造に合わせて新たに5枚の図案を追加し、242枚を完成させました。

オオカミ天井絵は、訪れる人が絶えない山津見神社で、人々に愛され、新たな時を刻んでいます。



平成28年、復元後の設置を前に福島県立美術館で行われた公開展。関連資料も展示され多くの人が来場。



1枚の大きさは約45cm四方。どの方向からも見られるよう、設置の向きはバラバラにされています。

飯館村消防団 村民の安心・安全な暮らしを守るためにたゆまぬ努力を続けています

飯館村消防団退職者へ報償金と感謝状



9月17日、交流センター「ふれ愛館」にて、「飯館村消防団退職報償金及び退職者感謝状交付式」を行いました。この報償金は消防団員として5年以上勤務し退職した方に支給されるもので、今回は令和5年度の退職者13人に交付されました。式には元副団長で勤続39年の大和田保男さん(八木沢・芦原)、元副分団長で勤続33年の佐藤春雄さん(大倉)、元部長で勤続29年の高橋忠男さん(上飯樋)が出席。杉岡村長が長年の尽力に感謝を伝え、感謝状を伝達しました。

令和6年秋季検閲式を行いました



10月20日、「令和6年飯館村消防団秋季検閲式」が消防分署南手駐車場にて行われました。式には、村消防団員66人、役場消防隊9人の計75人が参加しました。

式では、来賓を前に検閲の通常点検を行いました。また、続いて団員の表彰が行われ、福島県消防表彰の永年勤続章に8人、福島県消防協会定例表彰の功績章に1人、精勤章に4人の団員が受章。長年の貢献を讃えて表彰状も授与されました。

ひとのうごき

結婚おめでとう

氏名	出身地
大谷 蓮さん	小宮
伊藤 花菜さん	田村市

HAPPY WEDDING! 

(9月21日から10月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

ひとのうごき 令和6年10月1日現在

人口	今月(前月比)	9月1日~30日までの人口動態
●男	2,310人(ー1)	転入 3人
●女	2,256人(ー4)	転出 3人
計	4,566人(ー5)	出生 0人
世帯数	1,800戸(+2)	死亡 5人
		(住民基本台帳人口)

おくやみ

氏名	年齢	行政区
新谷 トメコさん	92	伊丹沢
岡本 葉子さん	85	関沢
菅野 美枝子さん	87	蕨平
齊藤 明子さん	84	深谷
須藤 留吉さん	84	比曾
細山 ハルヨさん	76	飯樋町
佐藤 敏子さん	92	草野
齋藤 隆さん	93	蕨平
青田 ツヤ子さん	91	草野

ご冥福をお祈り申し上げます 

宝くじ『コミュニティ助成事業』で備品購入

白石行政区では、宝くじの助成事業を活用し、白石集会所内に備品を整備しました。活用した「コミュニティ助成事業」は、宝くじの社会貢献広報事業で、宝くじの受託事業収入を財源として実施されているものです。

同行政区は、コミュニティ活動の促進を図り、より活発な行政区の運営を行うため、活動の拠点となる白石集会所内に、エアコンを整備しました。



集会所の研修室に4台のエアコンが設置されました。



村民広報委員 富士男の

ちょっと寄り道 ⑦



〈心の袋〉



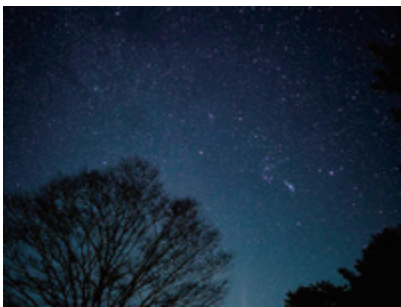
先日、私の働いているキャンプ場のお客様が、飯館の星空があまりにも綺麗なため、星の写真を撮影に来たと言ってきました。

一晩中、夜空の写真を撮っていたらしく、次の日の朝に何十枚もの写真を見せていただきました。本当に闇の中に白く輝く綺麗でステキな飯館の星達でした。絶対に心の奥の袋にでも、しまっておきたいような気持ちになってしまいました。

そしてもうひとつ、善意のタオルの話です。

皆さんもご存知の通り、能登半島では、1月に地震、9月に豪雨による災害に見舞われ、大変な思いをされています。そこで、現地に掃除をする為のタオルを送りたいと思い立ち、村民の人達に呼びかけたところ、多くの人達から、数千枚の善意のタオルが届けられました。第1弾として約1,000枚ほど送り、現在も約2,000枚ほど集まり、これから送る予定でいます。これもやっぱり、心の奥の袋にしまっておきたいような話です。

皆さんの心からの好意に感謝申し上げます。そしてこれからも、飯館村の星や自然の美しさのありがたさと、人の心の優しさを大切にしていきたいと想います。



長泥植樹祭・芋煮会 秋晴れの長泥にたくさんの人が集いました

10月13日、長泥コミュニティセンターとその周辺で、『長泥植樹祭・芋煮会』が開催されました。植樹祭は、令和4年から3年連続の開催です。『花の里長泥』の再生を目指して、サクラ、サルスベリ、ハナミズキ、アジサイなど3年間で約840本。地元の皆さんはもとより、大勢の関係者や支援者の手で植えられました。

高橋正弘区長は「ニコニコと来

てもらえることが最高。この植樹は3年で区切りを迎えるが、今後イベントを企画し頑張っている姿を皆さんに見ていただきたい」と、鳴原清三実行委員長は「仲間がいたからできたこと。活気ある長泥をつくっていききたい」とあいさつし協力に感謝しました。芋煮会では、区内再開第1号の新米のおにぎりも振る舞われ、笑顔の交流が続きました。

試験栽培と実証栽培の検査をクリア。栽培協力者の1人・庄司喜一さんがおいしい新米を提供しました。

新米のおにぎりを笑顔で握る皆さん。菅野一江さん特製の梅干しを使用。



3年目の植樹祭にも多くの人が集まりました。青空の下で記念撮影。



福島大学・大黒ゼミの皆さんが協力。炊き出し用の大鍋で芋煮を準備しおこわやデザートも提供。



植樹のセレモニーにて。右から高橋区長、鳴原実行委員長、高橋副村長。晴れやかな笑顔です。



大きく育てて花が咲きますように！

〈編集後記〉
広報担当になってから半年が過ぎました。最初是不慣れだったカメラでの写真撮影にも慣れ、個人的にカメラを持つようにもなりました。その時に起きた出来事を記録し後世に伝えるという大げさかもしれませんが、そんな仕事にやりがいを感じている今日この頃です。今後も村を回りながら、皆さんにとっておなじみの広報さんになれるよう、精進してまいります。(巻野)

飯館村に移住をした方の取材を毎月少しずつ進めています。その多彩な村とながったきっかけなど元々村民の皆さんにもお伝えしたいことだらけ…。新たな視点で飯館村を見つめ直すこともしばしばです。新着話題の取材が続いているため、広報掲載までもう少しお時間いただきます。(星)

いいたて 冬まつり

11月23日 土

いいたて村の道の駅までい館

午後3時15分 第3回飯館ジャズフェスティバル
県内外からバンドが集結します！

午後5時 イルミネーション点灯式
令和7年1月15日まで毎日午後4時から午後9時の間で点灯します。

午後5時30分 第5回いいたて冬の花火
道の駅付近で花火を打ち上げます。

問 飯館村商工会 ☎0244-26-7957